産業厚生常任委員会会議録

（令和６年６月２８日）

愛　南　町　議　会

愛南町議会産業厚生常任委員会会議録

本日の会議　令和６年６月２８日（金）
招集場所　議員協議会室

出席委員

委員長	吉田茂生	副委員長	嘉喜山　茂
委　員	尾崎　惠一	委　員	少林法子
委　員	鷹野正志	委　員	原田達也
委　員	山下正敏		

欠席委員
なし

出席委員外議員
議　長　佐々木史仁

傍聴委員外議員
なし

職務のため出席した者

議会事務局長	本多幸雄	主幹	小松一恵
係長	山口　昌		

説明のため出席した者
なし

本日の委員会に付した案件
（１）所管事務調査
□「農業振興について」
（２）その他

開　会　12時07分
閉　会　12時48分

○嘉喜山副委員長　研修後、お疲れのところ少々お時間をいただいて、産業厚生常任委員会を開催いたしたいと思います。まず最初に、委員長、あいさつをお願いします。

○吉田委員長　改めて、こんにちは。警報が出てますんで、早めに取りまとめをしながらですね、まとめていきたいと思うんですけども、町内の農業施設、それから松山、坂出ということで、農業施設を視察をいたしました。その中で、愛南町のあるべき姿も含めて今日取りまとめをしていきたいというふうに考えておりますので、忌憚のない意見を言っていただいて、できれば早急にまとめをしていきたいというふうに考えておりますんで、活発な討論をよろしくお願いしまして、開会の挨拶とさせていただきます。よろしくお願いします。

○嘉喜山副委員長　ここからは委員長の進行で進めたいと思います。よろしくお願いします。

○吉田委員長　それでは、早速、農業振興について取りまとめをしていきたいというふうに考えております。で、前回、視察を含めて色々と回ってきましたけども、皆さんの意見をまず最初に感想を含めてお聞きをしたいと思うんですが、それでまとめをしてく形でよろしいでしょうかね。あと、何か補足ございますか。

いいですかね、じゃあ、すいません、慣例に従いまして、尾崎委員の方から。

尾崎委員。

○尾崎委員　まず視察の中で、下難波地区の樹園地の整備、これについて感じたことなんですけれども、あれは、豪雨災害というのを契機として、復興再編に向けた整備であったようですけれども、新たな担い手というのを募集して、そして、より高単価な柑橘栽培と施設の整備というのをしているんじゃないかなと思いました。今後、この事例が本格的に柑橘栽培が事業化した時には、是非とも成功事例となってもらいたいなと感じました。

もう一つの、２日目の木下農園グループについては、令和５年度の販売高が１３億円ということで、外国人を含む正社員も１０５名おるということで、その規模の大きさにすごいなと感心をいたしました。

説明によりますと、社員の人件費とか生産資材等にかかる費用を差し引いた残りの事業利益というのが１割程度ありますということであったんですけれども、この農業生産におけるこの事業利益の１割というのは高いのか低いのかというのは実際のところよく分かりませんが、いずれにしても、この収益を上げながら健全な利益を確保しているのではないかなと推測されました。そして、事業利益の確保には、聞きますと、やっぱり高単価の野菜を年間を通して計画的に生産していることなのかなと、それが秘訣ではないかなというように思いました。そして、従業員をですね、年間を通して１年中雇用して労働量の平準化を図る、こういったことにもやっぱり計画的な生産はつながっているのかなと感じました。

行った中で一番ここについて課題として感じたのは、説明によりますと、多数の人海戦術によって農業をやってると。それと、肥料、農薬等の生産資材の購入とか農産物の出荷については、ほぼＪＡ、全量ＪＡとの取引となっているよということで、この点をですね、スケールメリットをもっと活かして、より安く肥料、農薬等の生産資材の購入を模索していくこととか、少しでも条件の良い価格のところに出荷することをもう一つ踏み込んで目指していけば、より経費の削減や収益を増やす余地はあるような気がいたしました。

そして最後に、外国人も７０人ほど雇用しているというようなことでありますけれども、今後円安が進行していけば、今のように簡単に外国人の雇用もままならない時代が必ず来るというようなことが考えられますので、今後はスマート農業の導入によっての経費削減とか合理化、また６次産業化によるさらなる収益確保というのが今後の課題ではないかなと感じました。

愛南町の農家については、これも高齢化によって遊休農地や耕作放棄地が今後ますます発生するかと思いますので、そうならないためには、やっぱり高齢者の農地所有者と新たに農業をやりたい担い手とのマッチングに、愛南町としては特に力を入れるべきではないかと思いますし、さらに、新たな担い手に対しては、高単価な作物を生産できるように合わせて指導してい

くことも今後重要ではないかなと、このように感じました。以上です。

○吉田委員長　なんかまとまりすぎて、それでもうなんかもうそれが全てのような感じしましたけど、まあまあおっしゃってることよく分かりました。ありがとうございました。少林議員なんかございますでしょうか。

○少林委員　まず、松山の下難波地区ですかね、明快な理論を基に綿密な長期計画をしていて、一喜一憂しないということで、理論としてはもう産地化というのは大事だと、圃場整備だということでされておられました。このような長期的で大規模な事業というの、特にまた不適地を適地に改良していくというとこからスタートするということで、行政主導の見本だなというふうに思います。その行政が各職員の専門性を生かして連携しているところが素晴らしいところだと思います。例えば、最初説明してくださったのは課長さんですかね、地主やそれから農家との交渉、合意形成、ここ相当長いこと時間がかかった、大変重要でしんどいとこだったと思います。それから、資金の確保、色々な補助金等ですね、そういうのを駆使している。そして、農家の負担をゼロにするとか、そういう大きな構築を課長が行い、それから土木があそこを工事し、そして営農の方では緑肥栽培、それから生やす草の種類まで大変専門性を生かされていたと思います。

それと、２つ目はその熱意ですね。これどうにかしちゃらんといけんという熱意で非常に積極的に農家や各種の組織に入って、この行政の方々がコーディネートの仕事をされておりました。これも大事なことだなと思いました。

各種のつながりを熟知している行政ならではのやり方ではないかと思いました。

２つ目、木下農園グループですが、心に残ったことは、その土地の特色、つまり土の質、気候を生かした作物、品種、育て方、これを理論的にすぱっと考えていること。それで、経営戦略も大変明確であること。３方向あると。６次化するのか、高品質化するのか、大規模化するのか、あれもこれもしない。うちは大規模化による生産性の向上とコスト削減だと、これに特化すると。非常に経営戦略が見事でした。それともう一つ、判断力。ＰＤＣＡサイクル、これが非常にスパンが速くて、良くなかったら早めに見切るという、そういう判断力も大事なとこだと思いました。

それと、今の流れで海外に視野を持っていくということも考えさせられました。

この２つを見て、共通点、そしてうちの町に参考になる点としては次の５つです。

やはり、うちの土地、愛南町の土質、気候を生かした作物、品種を育てるということです。晩柑のこと言われましたですね。有名ですねと。他が追随してできない程突き抜けてくださいと言われましたですね。それから、経営戦略、３方向、愛南町にはあると思います。これ、色々企業ごとに分業化されていると思うので、ここをどうしていくかだと思います。

次、３つ目。これがなかなかなんですが、成功しているところはリーダー的な農家が仲間になって集団化している、あるいは農家を結びつけるコーディネーター的な存在が不可欠だなというふうに思います。これを愛南町でどうしたらいいんだろうかと思います。

そしてもう一つ、愛南町も今スタートしておりますが、海外戦略、台湾、今度議長さんも行かれますが、それから、世界の寒冷地には柑橘がないわけですから、そういう狙い目のところ、外に目を向けるという、この４点が我が町にも参考になるというふうに思いました。以上です。

○吉田委員長　ありがとうございました。それぞれまとめていただいてですね、これ意見を後で集約していきますけども、それぞれが本当によくまとめてらっしゃるなというふうな感想をしました。

引き続きまして、鷹野委員、よろしくお願いします。

○鷹野委員　２人ともすごいですね。もうこれがまとめになってるんやけど、言うことないんですけど、松山の方はですね、あれ８億かけてやる事業、県が絡んでるけんできとるんかなと。それも、どんだけの農家が、入る、その収益性云々、その８億かけてのバックができるのかなっ

ていうようなイメージがありました。ああいう痩せた土地にわざわざ作る必要もあるのかなというような感じがいたしました。そして、坂出の方は、やはり農家さん、野菜云々、この愛南町と比べたらやっぱ作地面積が広い、圃場が豊かであるということで、愛南町にああいう広い畑はないし、とにかくイモ畑、あの広さには感動するぐらいの広さであって、あの位やらないと農家として成り立っていかないのかなと、それを愛南町でやるにはなかなか難しいなというふうに思いました。

トータル的に振興ということで、スマート農業っていう一つのキーワードがあるわけですが、なかなかそのスマート農業っていうのをすぐに取り入れるのもまだまだ難しいのかなと。ドローン一つにしてもありますし、そういった部分で、やはりこれまでの研修、みかん農家武田屋みたいにやっぱ６次産業化するとか、個人でやっていく努力なんですが、やはり町全体的な農業振興ということを考えたら、町がある程度のこの指針を出して、共同的なジュース工場であったりとか、そういう６次産業に向けた方向性を一つこう示していくべきじゃなかろうかというふうに感じます。以上です。

○吉田委員長　ありがとうございました。後でそれぞれ項目をまとめていきますけども、今までの３人の意見の中で、色々とそれぞれの問題点、それから愛南町の問題点、対比させながらまとめに入っていきたいと思います。

続きまして、すいません、原田委員よろしくお願いします。

○原田委員　まず、松山の下難波地区ですかね、これを視察したわけなんですが、自園地の再編整備ということで、かなり急斜面を圃場を整備して平坦地にするという、今まで圃場整備というのはですね、大体受益者負担が何割かかかったわけなんですが、この事業については受益者負担はゼロということで、ただ、地権者の同意がいるということで、相続等の問題があったようですが、それをクリアしたら、ああいった大幅な造成ができる。これは、愛南町においてもやっぱりああいった地形というのは結構あるんで、今から若い農業者がああいった平坦地で栽培をしたいという、そういった要望はかなり皆さん持ってると思うんですよ。ですから、この事業をできたら有効に活用して、ああいった平坦地での大面積での柑橘栽培というのは、今後これ必ず考えていかんといけんと思います。これをできたら若い農業者にこういった事業があるんだということを周知して、特に今の平山地区なんかは結構若い者がおるんで、平山の山とかですね、そういうのをこういった造成をして、収益性が高い作物を、柑橘を栽培していくのが今後課題ではないかなというふうに考えました。

それと、あと木下農園なんですが、これは先ほど皆さんが言いよるように、かなり大面積で野菜もかなり種類も作っておるということで、大規模栽培することによってのコストダウンを図っておる。また、関西圏域に近いということで、非常に有利な販売も、ＪＡとしての有利な販売をできているんじゃないかなというふうに感じました。また、特に最近、ブロッコリーを、木下農園さんかなり面積を広げているということで、これは愛南町にも共通することなんで、本町もブロッコリーを推進をしているし、今後も増やしていこうというふうな計画になっております。ああいった耕作放棄地と言いますか、もう人が作らんようなったようなとこを率先して借り受けて栽培してるってことで、これも今、愛南町もああいった農家と言いますか、数軒出てきております。できたらこういった事例を参考にしながら、できたら愛南町はブロッコリーという、これで今後行っていただいたらいいのではないかなというふうに考えます。それと、外人の宿泊については、空き家を有効に利用をしているということで、今後、愛南町も、労働力の確保、それが一番の問題ですが、その際には、空き家を有効に活用するような、そういった補助なりを町としても出してあげて、空き家の有効活用ですかね、それを今後ぜひやっていただいたらと思います。以上です。

○吉田委員長　ありがとうございました。全ての意見がもう大体集約してきて、そのとおりだなっていうのが私の感想でした。最後に、山下委員お願いします。

○山下委員　私は、ちょっと総論的に。松山と坂出で２つの視察をしたんですが、どうもその２つの地域とも将来を見据えて、農地の整備とか、多くの農家が一致団結してそれぞれ取り組んでいることに驚きました。愛南町においては、まだ農家は個人的な、もう自分のことだけでみんなが共同でなんかをしようという意識が全然ないように思います。やっぱりまずは愛南町の農家の意識改革が一番必要だと思います。そのためには、やっぱり町の指導が改革の第一歩だと思います。以上です。

○吉田委員長　端的にありがとうございました。副委員長の方も。嘉喜山副委員長。

○嘉喜山副委員長　総括的になるんですけど、やはり売り上げ伸ばすとか、そういった農家についてはですね、やはり愛南町もそうなんですけど、企業的な考え方で経営戦略がしっかりしてるなというところを感じました。やはり、これを行政が指導してもなかなかここまでの考え方ってのは難しいなということで、行政ができることとすれば、そういったところの視察とか、そういった側面から支えていって、若手経営者とかそういった人にその知識を蓄えてもらって、新たな将来性を見出していくべきかなと私は思いました。

下難波地区については、やはり行政の関わり方として参考になる一つの事例で、果たしてこれが県レベルだからできるのであって、町レベルになった時に果たしてそこまでできるかなということで、県、町の提携のあり方についてもちょっと考えていくべきかなというふうに思いました。以上です。

○吉田委員長　ありがとうございました。これで全部意見が出ました。私の方も一言だけちょっと意見を言わせていただいてもよろしいでしょうか。

愛南町には、大きな問題が私は２つあると思うんですね。大規模農業しているところ、個人が２億、３億売り上げているところについては、ここはそれぞれの努力で成り立ってるんで、今後はどういう形でサポートしていくのか。例えば、愛南町の特産品ですから、それぞれ愛南町の箱でみかんを晩柑を郵送するのも一つの方法でしょうし、そういうサポートを、簡単なサポートしていって伸ばしていただくと。もう一つ、その中に零細農家の方をどうサポートしていくかっていうのが、これが一番愛南町にとっては大きな問題だろうと思います。今顕在化してるのが、みしょうＭＩＣ、それからフレッシュ一本松、緑新鮮市場含めて、出している農家の方が高齢化しておりまして、商品自体がもうなくなってきてるんですね。ある面では、トマト農家はまあまあそこそこ定期的にこう納める農家もいるんですけども、木下農園みたいに大規模になってくると、これはそういうフレッシュだとかＭＩＣに卸すことはしないって言ってました。それはもう当然してもらうと零細農家が潰れていきますんで、すごい妥当な考え方だなと。

後は、愛南町の場合、後継者っていうほどではないんですけども、その家庭菜園の少し延長としてその次世代の方が作っていただいて納めていただくと。こういうシステムを作っていかないと、どうしても限界がくるのかなと、そこはひとつ考えなきゃならない問題だろうというふうに思います。それから、後は、担い手不足、それから人手不足、これは一番大きな問題だろうと思います。先ほど、整備事業については、次の担い手の方、後継者ですよね、この方をなんとかその生産に結びつけていくと、そういうふうな、先ほど原田議員もおっしゃっていたように、担い手を確保していく、もしくは次の世代の方を確保していくための戦略だと思うんですね。愛南町にとってもこれは重要なことなんで、ここは自治体が主導してやっていくべきだろうと。

それからもう一つは、やっぱり人手不足ですかね。この前のちょっと研修の中でも、お手伝いプロジェクトですかね、これは本当にやっぱり有効に使っていかないと、零細農家、晩柑にしてもですね、もういいやと、人手がないんで、もうちっちゃいのはそのまま置いておこうとか、諦めがこう出てしまうような状況もあったりするみたいなんで、そこについては、こうい

うお手伝いプロジェクトを積極的に活用しながら、ある面では零細農家の方のサポート、柑橘ですよね、これはしていかなきゃまずいのかなと。大変これは大きな問題だろうと思いますんで、そこは今回気づいたことが非常に良かったなと私は感じました。これから先、いろんな形で、愛南町の農業を振興していかなきゃまずいんで、ある面では私も、先ほど誰か言ってたように、自治体がある面ではつなぎ役っていうんですかね、これをやっていかなきゃなんないのかなと。ＪＡがやっていただければ一番いいんでしょうけど、なかなかそこまで難しいみたいなんで、これはやっぱ自治体の仕事なのかなというふう私は感じました。すいません、一意見として伝えておきます。

皆さんの方でそれぞれの問題点も大体明記されてますんで、これで、なんか個々人の意見の中で一つこれだけはこう入れてもらいたいっていうか、この愛南町の農業にとって必要不可欠なもんってなんかございますかね。

いろんな意見が出ましたんで、その中で見習うべきものは見習って、それから将来的な、そうですね、さっき言ったように、将来を見据えた事業もしくは展開ができてないっていうのは本当悲しい状況で、そこはなんとかこうしなきゃなんないのかなと、もしくは自治体もしくは議会として何かできるのかなっていうのは感じますけども、何か意見ございませんでしょうか。これからの農業振興ですよね、愛南町の。

原田委員。

○原田委員　前の委員会でもちょっと言うたんですけど、結構水田があるんですよね。水田を言うたら、今米価の低迷と言ってますけど、これやっぱり水田の有効活用ということで、二毛作ということで、裏作にそのブロッコリーを今からどんどん栽培していくべきではないかなというふうに考えてますが、木下農園さんもブロッコリー結構やられるということで、これを参考にしながら水田の有効活用を今後進めていってもろたらと思います。以上です。

○吉田委員長　確かあそこは一反、一反がどれぐらいかちょっとわかんないですが、一反７，０００円とかなんかで借り受けしてるって言いましたですね。なんかそんなですよね。だから、ある面では愛南町にとってもできるんじゃない。今個人個人でやってるんで、なかなか耕作地がこう、そういうふうな農地に充てられないっていうような感じがすごいしてるんですけども、どんなですかね。その辺の意見、もしありましたら。

尾崎委員。

○尾崎委員　ＪＡえひめ南が、愛南町の重点品目として今ブロッコリーを指定して、もう４、５年前から作付けの指導、推奨しております。

当初、販売高１億円を目指して取り組んでおったんですけれども、昨年で９，０００万、１億弱ぐらいまでの販売高となってるので、今後も稲作の裏作として少しでも多く作れるようにＪＡとして進めていくのではなかろうかと思います。

問題は、専業的にやる農家の方は当然ブロッコリーを考えていかんといけんのやけど、農地を守る程度の兼業の方についてはそこまでの思いはないし、高齢化してきて、今後もう誰かに委託して作ってもらえばっていうとこは随分増えてきて、これについては個人同士で話し合って、請け負ってやりよる段階が今なんですけれども、今後増えてくればですね、やっぱり行政なりＪＡが介入してそのマッチングのお手伝いをやるべきではないかと、そこに力を入れるべきではないかなと感じました。

○吉田委員長　貴重な意見ありがとうございました。他に何かございますかね。

原田委員。

○原田委員　今の尾崎議員の提案なんですが、それで、農地中間管理機構をですね、愛南町もこれを活用するような方向に持っていくべきだと私は思っております。

○吉田委員長　質問いいですか、それは今もう既に存在してるんですか。

（発言する者あり）

○吉田委員長　それが活性化してないってことですかね。

（発言する者あり）

○吉田委員長　貴重な意見ありがとうございました。

尾崎委員。

○尾崎委員　前回の会の時に、農林課長がおられた時に、愛南町も農地中間管理機構ということで、そういった貸したい人と借りたい人のマッチングをしよるのかなと聞いたんですけど、実際にはあるけどそのような事例はないと。

私の知ってる限りでは、既ににそのようなことをやっとる人が長月でも２軒あって、大々的に農地を借りて１０町とか１８町とかやりよるとか、２軒あって、そういうのはそういった中間管理機構を活用してるのかなって聞いたら、そうではない、個人同士の話し合いでっていうことであったので、やっぱりこの中間管理機構の制度というのをしっかりと活用して主導してやって欲しいなというのが今の思いなんですけど。

○吉田委員長　私も、すいません、初めて聞いたんで、嘉喜山さんは分かってますかね。

副委員長。

○嘉喜山副委員長　確かにその中間管理機構はあるんですけど、果たしてそれでその大規模化に貢献できるかなってなったら、やはりそこは私はちょっと疑問点があります。やはり個人的に集約していった方が最終的にはその経営者にもいいし、貸し手の方にもいいんじゃないかなと思います。やるとすれば、やはり今一遍ですね、ちょっと原点立ち戻ってやり方をもう一遍構築しなければ、今の分は国がそういう制度を作ったからただ単にそれでやっとる程度にしか私は見えてないんで。やはりこういう意見を担当課にも伝えて、さあその担当課がどう考えとるかを聞いた上で、もう一度戦略の練り直しが必要かなと思います。以上です。

○吉田委員長　嘉喜山委員の意見なんですが、皆さんの方は実際にされてる方いらっしゃるんで、尾崎さんなんかあれば。はい。尾崎委員。

○尾崎委員　高収益の農業という部分については、その規模を大きくしてやりたいということで借り手があるんやけど。それともう一つは、すごく耕作放棄地とかそういったのがもう本来ならもうたくさん出て問題になってるところがですね、おかげでまだ綺麗に耕作されてるという、環境面でもですね、非常に大きな貢献されてんじゃないかなと思います。今後そういったところも手いっぱいになってくれば、ますます高齢化によっては手放したい人も増えてくるので、もう個人と個人との話し合いでは十分なカバーできなくなる時代が必ず来ると思うので、そういうことを考えれば、やっぱり町なりが中間となって、それにしっかり力入れてマッチングを図っていただきたいなと思います。

○吉田委員長　ありがとうございました。はい。山下委員。

○山下委員長　その点で、空き家バンクってあるでしょ。そういう農業版でね、農業バンクかわからんけど、そういうのも一つの考え方ではないかということで、やっぱ担当課と相談して、できるならそういうのでね。農業バンクか分からんけど、そういうのができたらいいんじゃないですか。

○吉田委員長　ありがとうございました。要は、あれですかね、機構っていうでっかい組織じゃなくて、農地の中間機構っていうとちょっとやっぱりこう言葉が重すぎるんで、さっき言った空き家バンクみたいな農地バンクをそれぞれが、個人の人が、貸し借りなのか提供なのかわかりませんけども、そういった形で大規模農園をどんどん推薦するんじゃなくて、逆に、６０代定年退職した後に、７０から７５位までまだ元気な人いますんで、そういった方にこう夢を与えるような、圃場なら圃場、それから土地なら土地、この確保をすることがある面では重要なのかなという気はするんですけども。とある私の知り合いが、もう定年になって、キャベツを作って、キャベツを出してるんですね。びっくりしました。その方と直接会ってませんけども、あるその販売所に行けばその人の名前が出てるんですね。立派なキャベツを作ってましたけど

も。そういう人材を、やっぱ少ししていかないと、ほんとに高齢化してもう大問題になって、ＭＩＣ自身もああいうところがもう本当にお手上げ状態で、例えば産地からはこれ入れても全然意味ないんで、やっぱり地産地消の項目からいくと、やっぱそういった農地バンクみたいな形でそれぞれができるような状態を作っていかなきゃまずいのかなという気は私は個人的にはしてるんですけども。そういった感じで、機構ではなくて、そういった、ちょっと敷居が高いんじゃなくて、少しフラットな形でそういうのが行政でできればいいっていう感じですかね。

尾崎委員。

○尾崎委員　私も、今回の学校再編の件で、学校の廃校の利活用のことで、みんなの廃校プロジェクトという機構があって、そこで、空き家バンクのように、ここととここの学校が廃校になっておりますが、利活用を希望するとこはないですかっていうのはネットで大きく募集ができるような制度があって、今後、うちは考えるっていうことになっておりますが、そんな感じで、農地についても、そのネット等を使って全国広く募集するのもいいのではないかなと思います。

○吉田委員長　ちょっとすいません、素人の考えで。農業委員会っていうのはこういう役目はしないんですか。そこが、こういうふうなその土地活用もしてもいいんですか。窓口ですね。

原田委員。

○原田委員　今、愛南町では、農地の貸し借りは農業委員会を通じてその利用権設定という方法でやってるんですよ。それを私は、さっき言ったように、農地中間管理機構を通してやった方がいいんじゃないかと、私は前からその提案してるんですけどね、なかなか、前向いて進んでないのが現状で。やっぱそれメリットっていうのがどうもあるみたいなんで。いずれそれをそっちに移行する方がいいんじゃないかなと思うんですけどね。

○吉田委員長　貴重な意見ありがとうございました。すいません、他になんかありますかね。

少林委員。

○少林議員　ちょっと話が大きくなり過ぎてはいけないとは思うんですけど、先ほど尾崎委員が言われたみんなの廃校プロジェクトのようなネット募集で町外の人にも声を掛けてということになると移住も関連してくるわけで、やっぱりさっきの本当の空き家のことだったり 移住政策だったりで、もし行政が関わるんであるとしたら、いろんな課が一緒になって、農林課じゃなくて、その農業の、この人たちを救う、愛南町の農業を救うのにいろんな課が一緒になって、この移住政策も含めてトータルでものを考えていかんといけんのかなというふうに思います。

○吉田委員長　ありがとうございました。他に何か意見なんかございますかね。

今皆さんが言っていただいた意見を集約しながら、例えば今行ったところ２か所と、それから愛南町の大規模農業、もしくは零細農家って言うんですかね、そういったのを比較しながら一つにまとめていく形でよろしいんですかね。

（「はい」と言う声あり）

○吉田委員長　取りまとめについては、

（「委員長、副委員長に一任します」の声あり）

○吉田委員長　一任でよろしいでしょうかね。じゃあそれで一応まとめて、またフィードバックするようにします。

それからもう一つですね、その他のところで、例の再エネ条例の件がそのまま何も進展もせず、ずっと引き継いできてるんですが、これもちょっと９月の定例では結論を出さなきゃまずいんで、もう一回委員会を開催する形で、事務局でなんか方法ってあるんでしょうか。議論がこのままでできない状態なんで、どうやって閉めていいのか。

局長。

○本多事務局長　国の方の方針が決まらないのでこれ以上進めないってことでしたら、そういった理由で一旦意見をまとめて、この議論については一旦終わらせるという方法しかないのかなとは思っております。

○吉田委員長　どうしましょうかね。多分、国の施策はもう全然変わってないんで、ただ、この前言ってた、例えばワット数で制限するとかっていうのは、条例の中で提案することは可能なんですかね。傾斜地の斜度の問題と、それからあとは火災で今大変な問題になってますよね。こういったのも含めて条例として、委員会として提案することは可能ですか。次回の話し合いになりますけど。

暫時休憩します。

（休憩）

○吉田委員長　休憩を解きます。

意見として何かございますでしょうか。鷹野委員。

○鷹野委員　今、国の動向がですねストップしているいうわけで、これ以上やってもまず進まないので、今の現状を担当課の方で１回説明員として呼んで、机上審査をして、そこで一回結論と言いますか、まとめをしたらどうでしょうか。

○吉田委員長　という意見が出ましたが、皆さんの方で何かご意見ございますでしょうか。

（「はい」の声あり）

○吉田委員長　よろしいですか。じゃあ、もう一回委員会を開いてやりますので、よろしくお願いしたいと思います。

あと、皆さんの方から何かございますでしょうか。

事務局なんかありますかね。よろしいですか。

すいません、貴重な時間いただきまして、ありがとうございました。最後、副委員長の方で閉めていただいて、閉会といたします。

○嘉喜山副委員長　皆さん、長時間にわたりまして色々とご意見いただきまして、ありがとうございました。最終的には委員長とまとめていきたいと思いますので、どうぞよろしくお願いいたします。お疲れ様でした。

委員長